

農村型地域運営組織(農村RMO)として 地域で支え合うまちづくり

便利でもなく 不便でもないまち
～ 住み続けたいなる 里山づくり～

和田地区まちづくり推進委員会

発表内容

- ✓ 1 1和田地区の紹介
- ✓ 2 まちづくり推進委員会の構成
- ✓ 3 農村RMO導入までの経緯
- ✓ 4 取り組み紹介
- ✓ 5 課題と今後の展望

1 和田地区の紹介 NO.1

浜田市の中でも中国山地を背にする旭町の基幹産業は農業で、人口約2500人の小さな農村です。

その中でも和田地区は人口・世帯数とも旭町の約18%を占めるものの、高齢化率は56.5%と高く、人口の2分の1以上が高齢者となっています。



(1) 位置

- ◆ 旭町の中央で広島県北広島町と隣接
- ◆ 和田・重富・本郷・戸川の4自治会



(2) 産業（農業）

- ◆ 水稲・しいたけ・桃



(3) 事業所・施設・交通 ~便利でもないけど 不便でもないまち~

- ◆ 事業所・・・まちセン、村のコンビニ、ガソリンスタンド、美容院、LPガス販売店
- ◆ 施設等・・・介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、駐在所、郵便局
- ◆ 交通手段・・・高速浜田道バス、市営生活路線バス

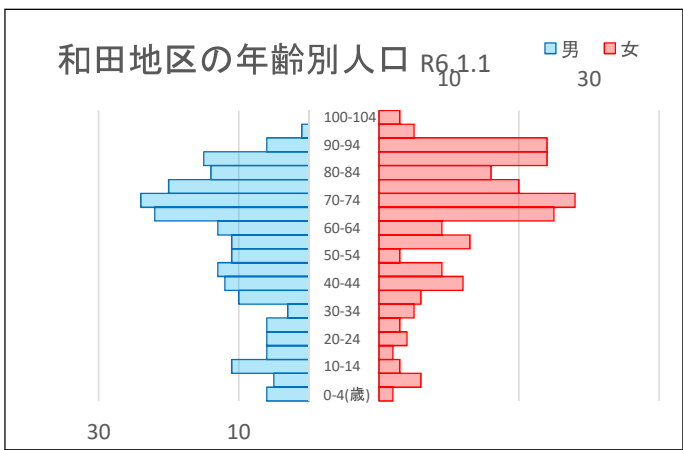
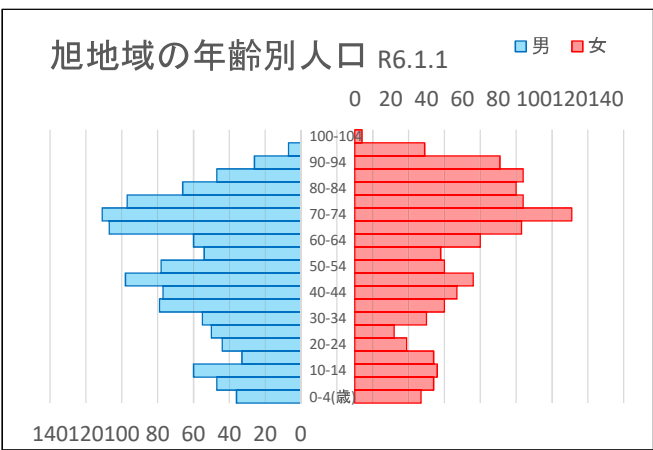
1 和田地区の紹介 NO.2



(4) 人口・世帯・高齢化率

令和6年1月1日現在

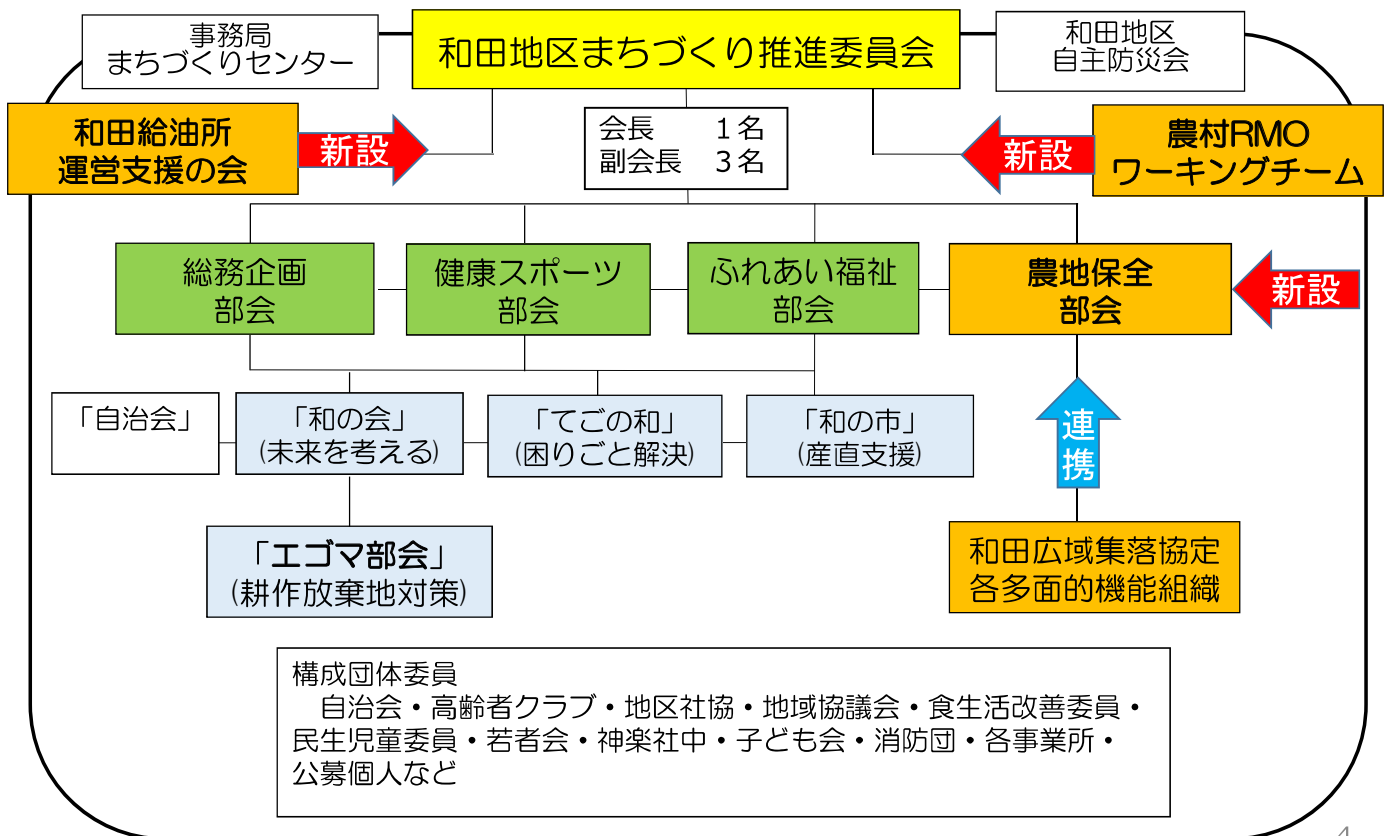
地区	人口 (内高齢者数)	世帯数 (戸)	高齢化率 (%)
和田	125 (80)	64	64.0
重富	99 (58)	45	58.6
本郷	157 (83)	88	52.9
戸川	56 (26)	24	46.4
和田地区合計	437 (247)	221	56.5
旭町合計	2,451	1,262	43.9



2 まちづくり推進委員会の構成 NO.1



まちづくり推進委員会の組織再編



4

2 まちづくり推進委員会の構成 NO.2

平成23年度、特色あるまちづくりを更に加速する手法として、「浜田市まちづくり総合交付金」を活用した事業が本格稼働しはじまりました。

年度	取り組み
H23～	<p>まちづくり総合交付金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館、学校校区を単位とした、地域内組織の連携したまちづくりがスタート
	<p>✓ 特色あるまちづくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりキャッチフレーズ決定・広報誌発行 ・地区合同運動会開催・地域内作物を活用した「料理教室」 ・Facebook立ち上げ・自主防災組織立ち上げ etc <p>✓ 課題解決事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと再発見事業・健康・防災ウォーキング ・産直出荷奨励事業・有償ボランティア設立 etc
H30	<p>「和の会」設立(未来を考える会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ、アンケート実施

5

3 農村RMO導入までの経緯 NO.1



平成30年度

まちづくり推進委員会の変革

行政

農地保全構想の見直し
人・農地プラン実質化

農地保全の意識高揚



まちづくり

アンケート調査実施

結果を見て「唖然！」

◆アンケート結果◆

和田の未来を考える
会「和の会」による
ワークショップ・
アンケート実施

今地域のことで
1番気になって
いることは？

1位

農地の荒廃

2位

高齢化

3位

生活環境悪化



6

3 農村RMO導入までの経緯 NO.2



令和元年度

まちづくり推進委員会の変革

◆アンケート第1位の「農地の荒廃」対策 ①

学習会の開催
・農用地の利活用
・農用地保全
・エゴマの学習

エゴマ栽培の事例
イノシシ対策にもいい？

エゴマ栽培を
やってみよう！
「エゴマ部会」
立ち上げ検討

学習会の継続開催

- エゴマお試し栽培
本郷・戸川・重富の4圃場
 - ・4月種まき
 - ・6月植付け
 - ・10～11月収穫
 - ・12月反省会
- これからの農地保全について
- 守るべき農地をどう守るか

学習会



視察



令和2年度「和の会」エゴマ部会設立

7

3 農村RMO導入までの経緯 NO.3



令和2年度

まちづくり推進委員会の変革

◆アンケート第1位の「農地の荒廃」対策 ②

旭町の取り組み

- ① 農地保全構想の見直し
- ② 人・農地プラン実質化

まちづくりの取り組み



中山間・多面との非連携

- ① 各集落協定代表者との意見交換会実施
- ② 広域連携制度説明会の開催

守るべき農地の再確認

連携した農用地保全への意識高揚

令和2年 中山間直払和田広域集落協定締結

8

3 農村RMO導入までの経緯 NO.4



令和元年度

まちづくり推進委員会の変革

◆アンケート第2位の「地域の高齢化」対策 ①

高齢者の
困りごと解消

解決には有償でも
いいんじゃない？

有償ボランティア
「てこの和」設立

蜂駆除



除草請負

ごみ出し



9

3 農村RMO導入までの経緯 NO.5



令和元年度

まちづくり推進委員会の変革

◆アンケート第2位の「地域の高齢化」対策 ②

高齢化による産直
野菜市存続への支援



地域全体で
盛り上げよう!



野菜市連合
「和の市」設立
(産直市支援)



3 農村RMO導入までの経緯 NO.6



令和元年度

まちづくり推進委員会の変革

◆アンケート第3位の「生活環境の悪化」

ガソリンスタンド
閉鎖危機

+

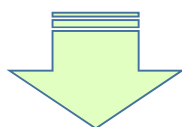
JA支所
ATM閉鎖

+

空き家の増加

=

三重苦
発生



何とかせにゃー・・・やれんの～

3 農村RMO導入までの経緯 NO.7



令和4年度

《 導入の決め手・・・平成30年～令和3年までの動き 》

プチ「農村RMO」

- ① 農用地の保全
 - ◇ 耕作放棄地防止対策・・・エゴマ試験栽培
 - ◇ 中山間直払いの広域連携化
- ② 地域資源の活用
 - ◇ 域内産直野菜市への支援
- ③ 生活支援
 - ◇ 有償ボランティア「てこの和」設立

躊躇なく
自然と 「農村RMO」 事業導入

12

3 農村RMO導入までの経緯 NO.8

【令和4年7月】

農村RMOモデル形成支援事業スタート

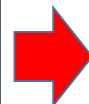
平成30年から令和3年までの、和田地区まちづくり推進委員会の特色あるまちづくりに加え、公民館のコミュニティセンター化も相まって、更なる「まちづくり」を推し進めるため、事業を導入。



和田地区まちづくり推進委員会



和田まちづくりセンター



新たな「まちづくり」
の形を形成

13

4 取り組み紹介 NO.1

✓ まちづくり組織の再編

① 「農村RMOワーキングチーム」を結成

- ◎ 農村RMOモデル形成支援事業の新たな『ブレイン』として
 - ・ 地域内の若者(40歳～60歳台)を登用
 - ・ 行政もオブザーバーとして参加
 - ・ 推進委員会内に新たな「風」を期待



② 「農地保全部会」を創設

- ◎ 中山間広域協定及各多面的機能支払組織の代表で構成
 - ・ これまでの個々での活動をまちづくり組織と統合
 - ・ まちづくり組織が農地保全を考える

③ 「和田給油所運営支援の会」を設立

- ◎ 地域内唯一の「ガソリンスタンド」の継続を支援

14

4 取り組み紹介 NO.2

✓ 農用地の保全

① 中山間直払・多面未実施地区の解消検討

～ 農地保全部会の設立 ～

② 「守るべき農地」の再確認

～ 10年後の土地利用計画図の作成 ～
～ 流動化促進のための「再圃場整備」検討会 ～

③ 耕作放棄地防止対策

～ エゴマ実証試験の継続実施 ～
～ ニンニクの試験栽培の実施 ～

④ 法人組織設立の検討

～ 農以外の活動も実施する法人を想定 ～

⑤ ITを活用した「地域内データベースの構築」検討

～ 農地関連データの共有サービスの提供 ～
～ 水温・水位センサー試験設置 ～



5

4 取り組み紹介 NO.3

✓ 地域資源の活用

① ガソリンスタンドの経営継続支援

- ～ 和田給油所運営支援の会設立 ～
- ～ 令和4年11月リニューアルオープン ～



② 地域特産品・産直野菜市への活性化支援

- ～ 「和の市」を活用した地域内製品のPR販売促進 ～

③ 未利用施設(空き家)の利活用

- ～ アンケート調査を基に「空き家バンク」登録支援 ～
- ～ お試し定住試験実施の検討 ～

④ 日本遺産認定「石見神楽」の維持保全

- ～ 次世代を担う「子供神楽」の継承検討 ～
- ～ 地域内4社中による「神楽共演大会」試験開催



⑤ ITを活用した「地域内データベースの構築」検討

- ～ 地域内産品等の情報提供 ～



16

4 取り組み紹介 NO.4

✓ 生活支援

① 「てごの和」の利用率アップ

- ～ 原因の追究と解決策の検討 ～
- ～ 周知用案内チラシの配布 ～



② 社協・地区社協との連携検討

- ～ 農福連携による支援の検討 ～

③ ITを活用した「地域内データベースの構築」検討

- ～ 「てごの和」申し込み・独居者（要支援者等）の安全確認 ～



17

5 課題と今後の展望 NO.1

✓ 課題

① 補助金制度終了後の事業継続

～ まちづくり総合交付金内でのやりくり ～

～法人化等が進んだ場合の収益黒字化による補填～

② 農用地保全についてのスピードアップ

～ 耕作放棄地対策 ～

～ 法人化・農地の集約（圃場整備等） ～

18

5 課題と今後の展望 NO.2

こんな「農村RMOを目指して!!」

✓ まちづくりの中心に「農地保全」を位置づける

- ・ 農家・非農家を問わず、そこに住み続けるための農地保全を目指す

✓ 農福・社会教育との連携

- ・ 介護予防策としての、野菜づくり等の推進
- ・ 学びあうコミュニティづくり

✓ 耕作放棄地防止対策

- ・ エゴマ・ニンニク栽培の推進・仲間づくり
- ・ 未利用施設(空き家)を活用した、農地付き「お試し定住」の促進

✓ 「和田まちづくりデータベースの構築」

- ・ 「農用地の保全」「地域資源の活用」「生活支援」すべてに利用可能

✓ 「まちづくり法人」の設立検討

- ・ 農作業、GS、てごの和等を手掛ける「多角型法人」の設立

19